
R P Gの王様

柳 大知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

RPGの王様

【Nコード】

N5173F

【作者名】

柳 大知

【あらすじ】

ニート生活を送っていた僕の前に、変な生き物が現れて…

平日の真昼間、世間じゃ景気が悪い悪いと嘆きながらも人々は懸命に働いている。ところが俺は冷房の効いた部屋で胡坐をかき、小さなTV画面の中で運命と戦っている勇者達を操っていた。

大学受験に失敗。親には来年頑張るといいながら、その気も無くなつてフリーター生活。

さらに、そんな最低限の場所からも転げ落ち、今じゃニートと呼ばれるダメ人間：

仕方ない、社会が悪いのだと託け、自分はこれといった努力もせず毎日ダラダラと過ごしている。

まともな友人もいなければ恋人もない。ちよつとの努力とそれなりの妥協をすれば両方とも得られそうな気もするが：

タイミングが良いのか悪いのか、画面の中から絶望的な音楽が流れた。

全滅。うゝん、レベル上げないとダメか…、あれ連発されたら回復が間に合わん。

どうやって街まで辿り着いたのか…、画面の中の勇者は棺を三つ抱え神父の前に立っていた。勇者が神父に金を渡すと復活の儀式が行われ、棺の中から魔法使い、武道家、僧侶が飛び出してくる。仲間達の命はそこらへんの武器屋のアイテムより遥かに安い。なのにこの街には魔王に立ち向かい戦死した者たちの墓がいくつもあった。彼らは余程貧乏人なのだろう。もしこの世界に生命保険会社があったら即破綻する：

くだらん妄想はこの辺にして、先へ進めよう。

さて、仲間も蘇ったし、そこらへんでレベル上げ、と俺は街を出

るよう勇者に指示する。だがその瞬間、背後の本棚あたりからガサゴソと何かが動く音が聞こえた。ん？またニャンコが荒らしに来たか…

ニャンコというのは我が家のデブ猫だ。ついこの間のこと、俺がコンビニに行っている隙にこの部屋に侵入し、本棚の特設フィギュアコーナーを滅茶苦茶にしていたのだ。幸い彼女達は怪我をせず済んだが、中には希少価値のある娘もいるのだ。

「今度やったら、ただじゃおかねーぞ」と怒鳴っておいたのに、またか…

パツとそちらに振り向く、だが別に変わったことは無かった。

よく考えたら部屋のドアは閉まっている。ニャンコでは無さそうだ。ならば何だ、地震だろうか？揺れは感じなかったが…、ん？誰か貧血で倒れちゃったか？

俺はそんな馬鹿な事を考えながら本棚に近づき、フィギュアコーナーを覗いた。

って、すぐに異常発見！だって俺は毎日ここを眺めてニヤケてるんよ、フィギュアの配置が変わってりゃ即気付く。

赤髪のツンデレ娘のポーズが微妙に違う、というか隣でその娘と手を繋いでいるメイドさん、誰…。いや待てよ、動いてる、こいつ動くぞ！

大きさは周りのフィギュアと変わらない、しかしそのメイドさんは俺に睨まれながら小刻みにプルプルと震えて…。

バタッ！

繋がっていた手が離れた途端、赤髪ツンデレ娘は前のめりに倒れ

た。それに驚いたようでメイドさん、完全にビクンと反応。

そしてその動く人形は、伸ばした俺の手にあっさりと捕まった。

やはり、生きてるようだ、掌にじんわりと熱が伝わってきた。しかし彼女は、まだ人形のふりをしているようでブルーの瞳は一点を見つめたまま動かない。そこで俺はやってやった。

ハラリと。彼女の長いスカートをハラリと…

「キヤー」

彼女は俺の手の中で可愛らしい悲鳴を上げた。集中してないと聞き逃しそうなくらい小さな声。

それ以上酷い事をする気は無い。って何する気だよ俺…
すぐに彼女のスカートを下ろしてやる。

「で、きみ何者…？」

「ふう〜、よくわかりましたね〜」

と、スカートを両手でしっかりと押さえながら答えるメイドさん。
そりゃわかる、俺だって人形と生物の違いくらい、一応…わかる…。

「むう〜、あとちょっとだったんですよ〜」

「何が…」

俺がおかしいんだろう。漫画の読み過ぎ？アニメ見過ぎ？こんな有り得ない状況で平然と手の中の小人と話してる。

「実はですね、私、妖精の試験の最中だったのです、人間の男性の部屋で一日過ごして、バレなければ合格だったのです…」

そりゃ一体何の試験なんだ…。

「まあいいや、で、どうするの？」

彼女は困り顔。

「えっと、バレた場合は…、人間のかたの記憶を少し奪う代わりに、

願いを一つ叶えなければいけないのです…」

おっ！何この展開！

「まじ！願い叶えてくれるの！？よし、じゃあ……、やっぱり金かな、うん、一生遊んで暮らせるだけの金」

すぐに彼女は首を横に振った。

「それは出来ないのです」

「何で？じゃあ、楽しんで超稼げる仕事でもいいや」

またしても、彼女は首を横に数回。

「あのう、すみませんが、現実世界に大きく影響を及ぼす願いは禁止なのです」

「じゃあ、何ならできるんだ？場合によってはこのまま君をどっかに売りつけるぞ…」

俺も咄嗟に酷いことを言うものだ。彼女は益々困り顔。

「うう、それは困りますう…。そうだ、どうでしょう、私の住んでるようなファンタジーの世界にご案内とか」

は？ふあ？ふあんたじー？

「何、じゃあ君はどっか別世界から来たっての？」

彼女はニコツと笑い、はいと答えた。

「じゃあ例えば異世界に連れて行けとかは？あり？」

「はい、異世界と言っても色々ありますが、どのような所がいいですか？」

おいおい、えらいことになったぞ、よく考えよう。

何か良い考えはないか、えーと、よし、そうか、よし、これだ！

そして、俺はTV画面を指差し、彼女に言った。

「決まった！あのゲームの中に、ハーレム築いて暮らしてる大金持ちの王様がいるんだ。俺がそんな王様になれたりしないか？」

「あのゲームの中ですね、はい！出来ます。だけど、そうすると、こちらの世界には戻って来れないですけど、いいですか？」

「おお、出来るのか！」

世界中の美女を集め楽しく暮らす王様。ハーレム！美女だらけ！
豪華な城に贅沢な料理！

たまに城下町のカジノでバニーガールの踊りでも見て…
うひょー、例え現実世界に戻って来れなくたって一生幸せに暮らせるんじゃないの。

「その、わかるよな大金持ちの王様で、ハーレム築いてて、毎晩豪華な宴が開かれて、城下町にはでっかいカジノがあって…」

彼女はニツコリ笑う。

「はいはい、お任せください。そっくりな世界にご案内します」

「よし頼むぞ！」

「はい！お任せください。いきますよ！そーれっ！プリラカラピカピ〜ヌ」

彼女が変な呪文を唱える。そして俺は意識を失った。

ん…

ん…

ゆっくりと意識が回復。寝過ぎた後のような重たい目蓋を開く。
徐々に脳が周囲を認識していく、どうやらここは俺の期待通り、
思い描いてたそのまんまの世界。

豪華な内装、王座の横にはカラフルな扇でリズム良く風を送る美女達。俺に代わって国政をしてくれるのだろう大臣らしき人の後ろ姿。

ここは謁見の間だろう、俺が座っているのは金ぴかの王座。まさに俺が望んだ通りだ。

だがしかし…、少し違和感…。

「勇者をお連れしました！」

部屋の奥から声、すぐに重そうな鎧を着た兵士長だろう人物が勇者御一行を連れ、俺の前に現れた。

「兵士長、下がってよい」

ん、俺は何を言ってるんだ…。

「さて、勇者よ、城の南の洞窟に魔王が潜んでいる、この城の兵士達では歯が立たなかった。そこでお主に、我が城に伝わる宝剣を授けよう。これを受け取れ、宝物庫のカギじゃ、頼むぞ！」

さつきから、口が勝手に…

「は！ありがとうございます！必ず倒してまいります」

と、仲間より一歩前に出ている勇者が言った。

「うむ、急ぐのもよいが、どうだろう今夜は、ちと宴といかんか？」
おお！きつと盛り上がるだろう。

「お言葉は有難いのですが、一刻も早く魔王を倒さねばなりませんので」

勇者は真面目な顔でそう答えた。

「そうか、まあよい、では頼んだぞ、必ず魔王を倒し平和な世界を取り戻すのだ」

俺がそう言うと、勇者ご一行は、兵士長と共に部屋から出て行った。

「さうて、勇者には断られたが宴の準備だ！」

と、そんな命令を威勢よく言ってみたいところだが、全く声がでない…。おまけに体も動かないのだ。顔は前を見据えたまま、僅かに動かせる眼球を動かしても隣の美女の顔もすら見えん…彼女達は無言のまま、一定のリズムで扇を動かすだけ…。

なんとなくくわかってきた。

でも融通を利かせろよ…

あのアホ妖精…

RPGの中の王様は王座から動かないんだろ！

て、もしかして俺、一生このまま？

（完）

(後書き)

主人公きもい…

(09／08／19) かなり今更ですが、新作投稿へのリハビリを兼ねて過去投稿作品を見直してます。その第一弾？
ストーリーはもちろんそのまま、表現だけ少し改めて読みやすくしたつもりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5173f/>

RPGの王様

2010年10月8日15時11分発行